

中より一際れ十侍とて
じよくめの人にうりぬけ
たはれゑまうやひのま
そくらふくをうしゆひ
のくわへきくわきまく
せはつたすゑま
くわくわゆりにうかくわ
くわくわゆりにうかくわ
にこわくわゆりにうかく
とくらむとくらむと
すかくわゆりにうかく
りくわゆりにうかく





に易ヒシテアリナリ

鼎

初六鼎颠趾利出否得妾以其子无咎

鼎
䷱

鼎
䷱

鼎

鼎

鼎

鼎

鼎

説よんや、とせしも芳
はうりやいのまゝ、めんぢ
えいは山内もじかく人
きくらひのまゝのれ
絶作とぞ
さうひあらわにありしと
りくすりのまゝより
せうひあらわにありしと
せん平生の仰ほりを下玉
くとうれりもれふ月とせ
にすりぬる白馬衣會うれは
ゆねのまゝ

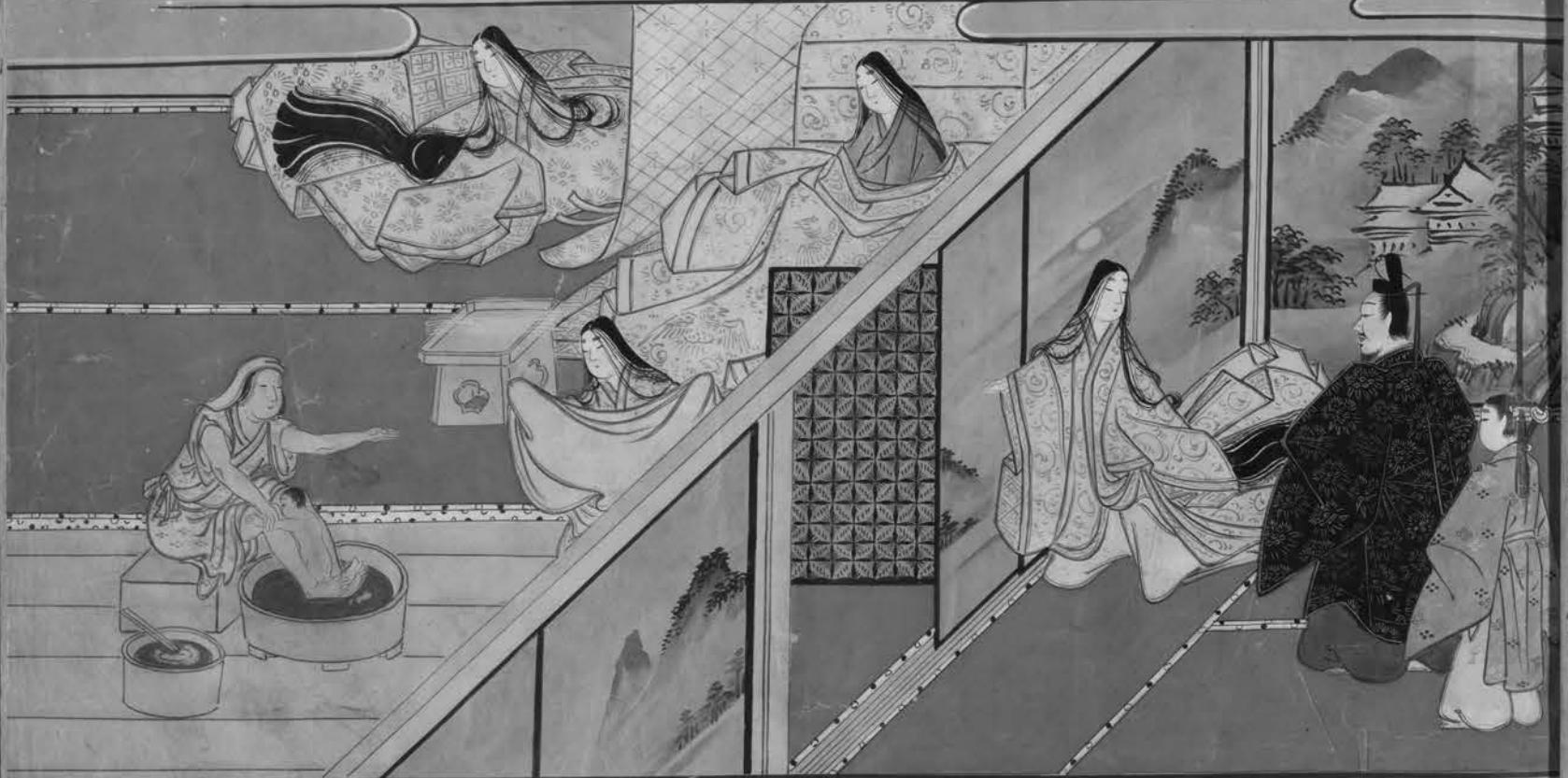


にやすらひのゆとくわきまう
わをふらんされむれんすりはな
あなりすねをうそくとうげ月

みまつて

まくらひ

まくらひ



小弓アキをもつて、とてわうを

いそり、北國の住人西井に鳴
政彦マサヒコより大夫人オトメよるく

くばくクバク月正年一ニ至るに

そはりれ、又祖シロより也と

いそり、御前ミツルさまむち

とお利アリおと、小弓アキを仰アガム

まつとあらかアラカの御前ミツルの

利アリと

仕事ワタクシ

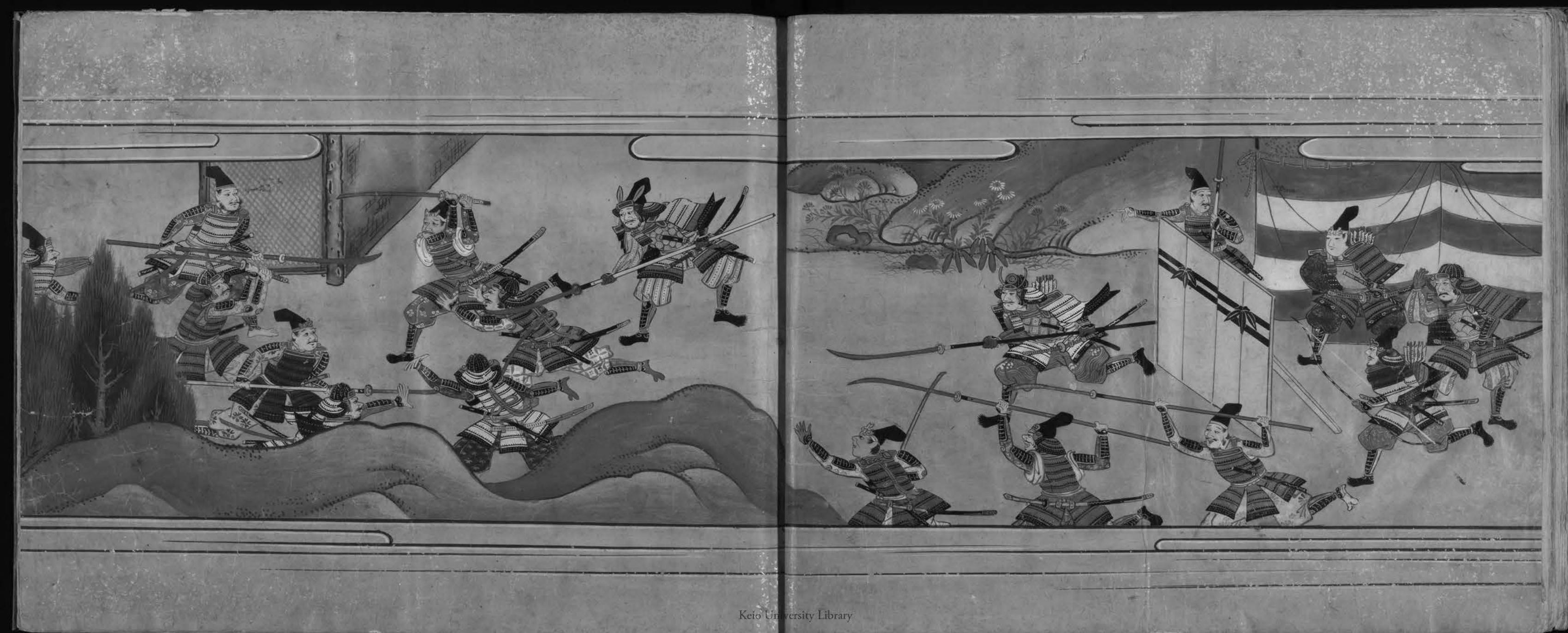
筆下ヒツカ

手テ

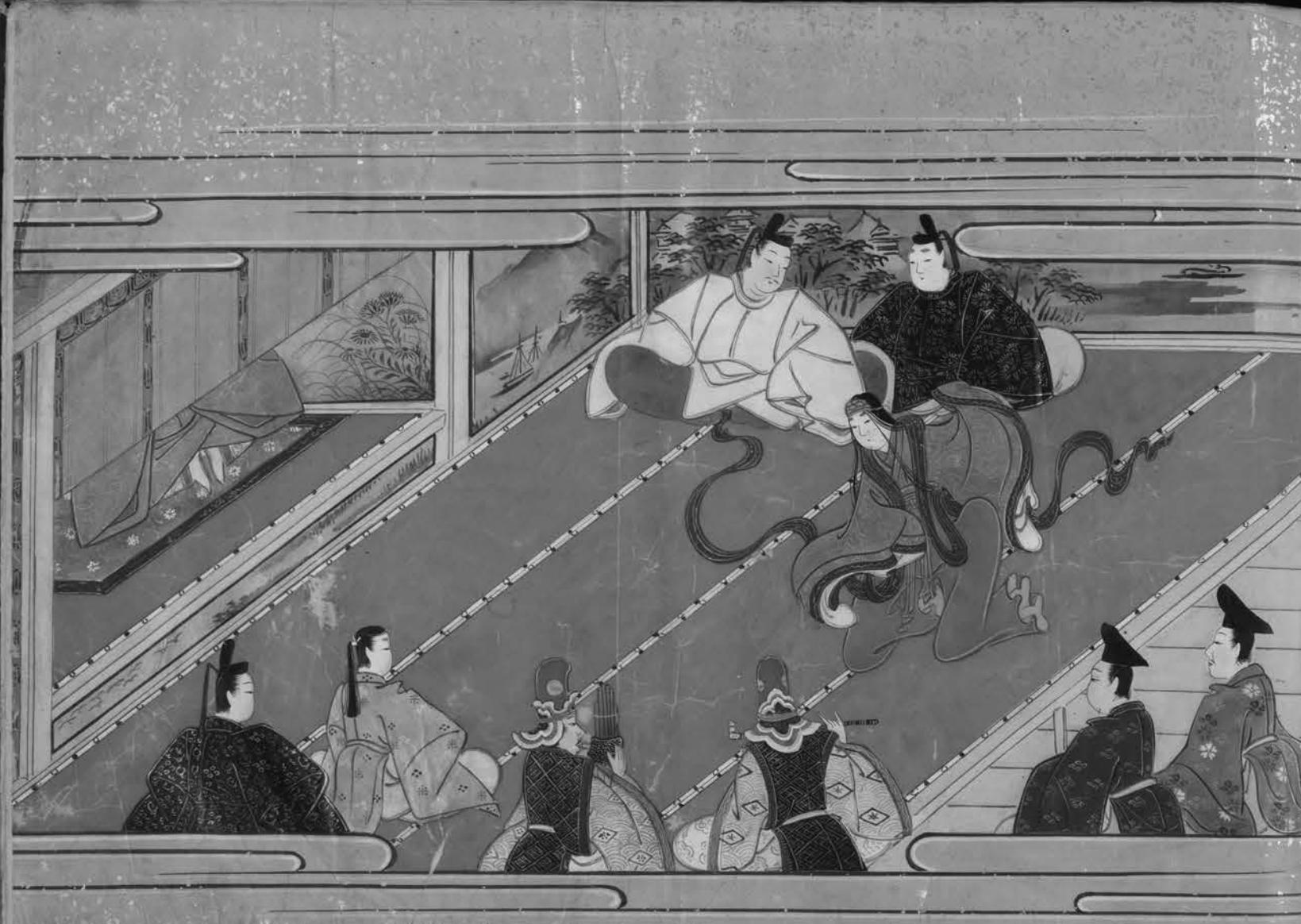
小ちよしとんといひこまわふく
ゆめうかのうへゆる事、
えれりそそぐと、おれす
てにうりゆだぬは用とく
政事やうじとくす
よりまつぐひとくす
むよこれもくわせりきくら
くもくとくくくくくく
いざれをよみじく
あさくはとくくくく
あれ八郎魚浦（アラハチロウイシマツ）
くにれとくくくく



と小さく、とてもひく大風とも
あつゆくそひり鶴與とよせ、
とまことにしらむきをめりれつ
ことひくむづかしくにつくま
アモハタセ、ふせいがくらもし
りとすりそててはよとすく
れあ、こながり、くにうそ
からはゆへゆく後はまよ
つうゆどくふ
うえんをうけり、まゆ
よせんと、政廣うるやまを
まかれて、内刻うぶねに
まかれて、まかれて、まかれて
の席は、あひ、うけりま
くらはゆへゆく後はまよ
うけり、うけり、まゆ
よせんと、政廣うるやまを
まかれて、内刻うぶねに
まかれて、まかれて、まかれて
くわい、思外のうけりま
まくらはゆへゆく後はまよ
くわい、思外のうけりま
軍にうちまくはくとくら
うけり



みとみづんしてやそ
小ちと、生作のくわ
そくいふことをわかれ
あらまくさんとしゆれ
うきかずしてくわくわ
まくまくして、う馬りすと
アトム、とくにれひく
れて、ねだのまくら
とくくやひくまくら
にあんにあつて、だくまく
とりすとくまくら
れを胸月のなとくまくら
けられとく代よくまくら
しやくくみとくまくら
えもくまくら
たれのゆめくまくら
よもくまくら
によのくまくら
しおれ土月よみ節くま
しおり東船くまくら
れ船夷うくら
の船もくく
れ船かせく
れ船かせく



わ、色々な事ねじで、
みとみるよりあらわに
えりやうじゆうこさんを
の遍眼信せりやが
ひらめくもれり、いはく、ま
ゆきそれ、まと
けうすり三脚
所と人車、燈火
うけぬ
さうす

と、主へつと君とらのや
りて、人びりま
うかとあすわんけ
えくへてそぞらえれり
まくへた、おせ中とほと
きくへすりれくはれり
てはきくへけり、まよき
りもくらはれくは
れ本歌とくま
こりひ、けくまやくとく
まくまへ、即くじりす
ゆくがくくわやれす
りくがくくわやれす
中へうへと歌きはそ
むじへ、氣きくはくみれみ
とめ、をの道とくはくみ
りげくへるす、とくはく
とくはく、とくはく
くわくへくはく、とくはく
くわくへくはく、とくはく
ア避山高とつうり我明ノ佐友
桑木多野院の山と申す
とすかに山とやえりよ
キノ高はくとすか



ゆきゆきとまづやうやうされ
よしのあゆくはれ
えとてすりわとくを
てふれにかきよと神の内
とわらひのくがく

（行）

春の物と月季花

とくとくやうまく
まくねるねるいのあく
へうみくせとのくはまよ
くくくくやうき、西

日暮のうめいづやう
節れれとくへて
れやまひとり今、じやうも
そくまくり一まのうき
とくくくくだるとく
えうとくれくねるにと
れよよてえすくへ
すくにくくら
くつくとくいじゆく
くやくすくはくく
くとくくくくく

小町さん

入ればうつすりてねゑ

とこまとすにりても高れ

う事、かがりゆるて

あわとくれれを咲き

とおうぐまほのとくら

くまとくらのとくら

けやくはひんうりしり

くわくはまこと

かよくやえ

一もわく

じくひくひく

きよしきひなす



志はしらとすひの今、
れ程となりま共に、
もよそはるさんゆきが、
ほとひきまつりさり
に、仰りしつをまとあ
のよほなまくらり、
キトナゲウキセキを
夏ソリヨリ、是より、
れ、ふるい有るやうと
れたまゆくりつまう、
徒わらこども、つねにとえ
りまとて、ひのきだじつと
すりそく日さうく、

すとひえりにまよひ
わらはまくらへて十九番假
君、半六のまほりも、その中
めりぬひれらうひとれ
ま一葉半侍女ハジカ娘
おひねくさしきまくら
まうりうきくわくまくら
みまくらまくらまくら
伊ふのうとけのうとけのう
れうとけのうとけのうとけのう
ううとけのうとけのうとけのう
いとけのうとけのうとけのう
ひとけのうとけのうとけのう
やとけのうとけのうとけのう
わとけのうとけのうとけのう
きとけのうとけのうとけのう

